

監修

新村出
山岸德平

高木市之助
小島吉雄

久松潜一

大和物語

南波浩校註

朝日新聞社刊
日本古典全書

南波 浩（なんばひろし）

明治四十三年京都府生。昭和十年
京都大學國文學科卒業。同志社大
學教授。主著―物語文學概説、物
語文學、校異古本竹取物語等。

日本古典全書

「大和物語」 南波浩校註

昭和三十六年十月十八日初版發行

昭和四十二年七月三十日第二版發行

印刷所 株式會社精興社

發行所 朝日新聞社（東京都千代田

區有樂町・大阪市北區中之島・

小倉市砂津・名古屋市中區榮）

定價 五〇〇圓

目次

解 説	三
-----	---

大和物語の名義と時代思潮	三	底本の性格	五
--------------	---	-------	---

大和物語の作者と成立時期	三	大和物語の構成	五
--------------	---	---------	---

大和物語の傳本系統	三	大和物語の特質	六
-----------	---	---------	---

研 究 文 獻	六
---------	---

凡 例	一〇五
-----	-----

本 文	一〇七
-----	-----

一 亭子の帝いまはおりぬ給ひて	二〇	輔、前坊の薨去を悲しむ歌	二三
-----------------	----	--------------	----

(宇多帝と伊勢との贈答歌)	二〇	六 朝忠の中將の、人の妻にてありける人に	二三
---------------	----	----------------------	----

二 帝おりぬ給ひてまたの年の秋	二〇	(藤原朝忠の戀歌)	二三
-----------------	----	-----------	----

(宇多上皇と良利大德)	二〇	七 男女相しりて年經にけるを	二三
-------------	----	----------------	----

三 故源大納言、宰相におはしましける時	二〇	(ある男の戀歌)	二三
---------------------	----	----------	----

(源清陰とし子)	二〇	八 監の命婦のもとに中務の宮	二四
----------	----	----------------	----

四 野大貳、純友のさわぎの時	二二	(式明親王への監命婦の戀歌)	二四
----------------	----	----------------	----

(小野好古と近江守公忠)	二二	九 桃園の兵部卿の宮亡せ給ひて	二五
--------------	----	-----------------	----

五 前坊の君亡せ給ひにければ	二二	(とし子の歌)	二五
----------------	----	---------	----

- 一〇 監の命婦、堤にありける家を人に
賣りて後……（監命婦の歌）……………二六
- 一一 故源大納言、忠房のぬしの御むす
め東の方を……（清陰と忠房女
との贈答歌）……………二七
- 一二 同じおとどかの宮をえ奉り給ひて
……（清陰、亭子院若宮に贈歌）……………二八
- 一三 右馬の允藤原千兼といふ人の妻に
……（千兼と一條の君との贈答）……………二八
- 一四 本院の北の方の御おとうとの……
（おほつぶね、陽成帝に贈歌）……………二九
- 一五 又釣殿の宮に若狭の御といひける
人を……（若狭の御、陽成帝に
贈歌）……………三〇
- 一六 陽成院の典侍の御……（典侍の御
と繼父少將との贈答）……………三一
- 一七 故式部卿宮の出羽の御に……（出
羽の御と繼父少將との贈答）……………三三
- 一八 故式部卿宮、二條の御息所に絶え
給ひて……（式部卿宮、二條御
息所に贈歌）……………三三
- 一九 おなじ人、おなじ皇子のもとに……
……（二條の御息所と式部卿宮と
の贈答）……………三三
- 二〇 故式部卿宮を桂の皇女せちによば
ひ給ひけれど（桂皇女の戀歌）……………三三
- 二一 良少將、兵衛佐なりけるころ……
（良少將と監命婦との贈答）……………三四
- 二二 良少將、太刀の緒にすべき革を……
……（良少將と監命婦）……………三四
- 二三 陽成院の二の皇子……（俊陰女、
元平親王に贈歌）……………三五
- 二四 先帝の御時に右大臣殿の女御……
（定方女、醍醐帝に贈歌）……………三六
- 二五 比叡の山に明覺といふ法師……（明
覺、師の死を悲しむ歌）……………三七
- 二六 かつら（き）の皇女、いとみそか
に……（桂皇女の戀歌）……………三七
- 二七 かいせうといふ人、法師になりて
……（戒仙、親への贈歌）……………三八

二八	おなじ人、かの父の兵衛佐の亡せにける年の秋……（亡父を偲ぶ戒仙と客との贈答）……………	三九
二九	故式部卿の宮に三條の右の大臣……（定方の詠歌）……………	三九
三〇	故右京の大夫宗于の君……（宗于の詠歌）……………	三〇
三一	又右京の大夫、監の命婦に……（宗于、監命婦に贈歌）……………	三一
三二	亭子の帝に右京の大夫……（宗于、亭子院に贈歌）……………	三二
三三	躬恆が院に詠みて奉りける……（凡河内躬恆、院への贈歌）……………	三三
三四	右京の大夫のもとに女（女より宗于への贈歌）……………	三三
三五	堤の中納言、内裏の御使にて大内山に……（兼輔の詠歌）……………	三三
三六	伊勢の國に前の齋宮おはしましける時に……（兼輔、齋宮へ詠歌）……………	三三
三七	出雲、はらから一人は殿上して……	三三
三八	（出雲、殿上せざるを悲しむ歌）……………	三九
三九	先帝の五の皇子の御むすめ……（一條の君壹岐守の妻となりての詠歌）……………	三九
四〇	伊勢の守もろみちの娘を正明の中將の君に……（宗于、童女に贈歌）……………	四〇
四一	桂の皇女に故式部卿宮すみ給ひける時……（敦慶、童女に螢を捕へさせし時の童女の詠歌）……………	四一
四二	源大納言の君の御もとに、とし子は……（清陰、とし子等と物語る）……………	四二
四三	ゑしうといふ法師の……（惠秀の詠歌）……………	四三
四四	この大徳、房にしける所の前に……（惠秀の詠歌）……………	四四
四五	おなじ人に、ある人……（惠秀の詠歌）……………	四四
四六	堤中納言の君、十三の皇子の母御……	四六

- 息所を……(兼輔、子を思ふ歌)……一四〇
- 四六 平中、閑院の御に絶えて後……(平中、閑院の御と贈答)……一四一
- 四七 陽成院の一條の君……(一條の君の詠歌)……一四二
- 四八 先帝の御時、刑部の君とて……(宇多帝、刑部の君へ贈答)……一四三
- 四九 又おなじ帝、齋院の皇女の御もとに……(宇多帝、齋院と贈答)……一四三
- 五〇 戒仙、山にのぼりて……(戒仙の歌)……一四三
- 五一 齋院より内に……(齋院、宇多帝と贈答)……一四三
- 五二 これも内の御歌……(宇多帝の詠歌)……一四四
- 五三 陽成院にありける坂上とほみちといふ男……(坂上とほみち、女への贈歌)……一四四
- 五四 右京の大夫宗子の君二郎にあたりける人……(宗子の二男の歌)……一四五
- 五五 男、かぎりなく思ひける女を置きて……(女、旅に死にし男を悲しむ)……一四六
- 五六 越前權守兼盛、兵衛の君といふ人に……(兼盛、兵衛の君と贈答)……一四六
- 五七 近江介中興がむすめをいいたうかしづけるを……(兼盛、中興女に贈歌)……一四七
- 五八 同兼盛、陸奥の國にて……(兼盛、黒塚の女に贈歌)……一四七
- 五九 世の中をうんじて筑紫へ下りける人……(ある人、女に贈歌)……一四八
- 六〇 五條の御といふ人ありけり……(藤原山陰女、女の燃えたる繪を男に贈る)……一四八
- 六一 亭子院の御息所たち……(亭子院の御息所、院に留りての詠歌)……一四九
- 六二 のうさんの君といひける人……(のうさん、淨藏と贈答)……一五〇
- 六三 故右京の大夫の、人のむすめを忍

六四	平中、にくからずおもふ若き女を …… (平中、若き女を逐ふ) ……	一五	七二	おなじ宮おはしましける時に…… (平兼盛、敦慶親王を追憶の詠歌) ……	一六
六五	南院の五郎、三河守にてありける …… (南院の五郎、伊豫の御に戀す) ……	一五	七三	人の國の守の下りける馬のはなむけを…… (兼輔、國守を餞す) ……	一六
六六	としこ、千兼を待ちける夜…… (とし子、千兼を待ちて詠歌) ……	一五	七四	同中納言、殿の寢殿の前に…… (兼輔、櫻を移植し詠歌) ……	一六
六七	又とし子、雨の降りける夜…… (とし子、雨夜千兼を待ちて詠歌) ……	一五	七五	又おなじ中納言 (兼輔、加賀守を餞して詠歌) ……	一六
六八	枇杷殿よりとし子が家に…… (仲平、とし子の家の柏木をもとめて贈答) ……	一五	七六	桂の皇女のもとに、嘉種が來たりけるを…… (源嘉種、桂の皇女に戀歌) ……	一六
六九	忠文が陸奥の國の將軍になりて下りける時…… (忠文の男、監命婦に贈歌) ……	一五	七七	これもおなじ皇女に、おなじ男…… (嘉種、桂の皇女に戀歌) ……	一六
七〇	おなじ人に監命婦…… (忠文の男と監命婦) ……	一五	七八	監の命婦、朝拜の威儀の命婦にて…… (監命婦と元平親王) ……	一六
七一	故式部卿宮亡せ給ひける時に…… (兼輔、定方の贈答) ……	一六	七九	又おなじ皇子に、おなじ女…… (監命婦、元平親王に贈歌) ……	一六
			八〇	宇多院の花おもしろかりける頃…… (右京大夫宗子、宇多院の花) ……	一六

- を賞して詠歌)……………一六
- 八一 季繩の少將のむすめ右近……………(右近、敦忠に贈歌)……………一七
- 八二 おなじ女のもとに……………(右近、敦忠に贈歌)……………一六
- 八三 おなじ女、内裏の曹司に住みける時……………(右近、雨夜の詠歌)……………一六
- 八四 おなじ女、男の「忘れじ」と……………(右近、離れし男に贈歌)……………一六
- 八五 おなじ右近、桃園の宰相の君……………(右近、桃園宰相に贈歌)……………一六
- 八六 正月のついたち頃……………(兼輔、藤原顯忠と贈答)……………一七
- 八七 但馬の國に通ひける兵庫の頭……………(兵庫頭と但馬の女との贈答)……………一七
- 八八 おなじおとこ、紀の國に下るに……………(同じ二人の贈答)……………一七
- 八九 修理の君に右馬の頭住みける時……………(修理の君、右馬頭の贈答)……………一七
- 九〇 おなじ女に、故兵部卿宮……………(修理、元良親王に贈歌)……………一五
- 九一 三條の右の大臣の中將にいまそかりける時……………(右大臣定方、女に扇を求む)……………一五
- 九二 故權中納言、左の大臣の君を……………(敦忠、御匣殿別當に戀歌)……………一五
- 九三 これもおなじ中納言、齋宮の皇女を……………(敦忠、齋宮に戀歌)……………一七
- 九四 故中務の宮の北の方亡せ給ひて後……………(代明親王、義姉三條御息所との贈答)……………一七
- 九五 おなじ右の大臣の御息所……………(三條御息所、齋宮に贈歌)……………一七
- 九六 かくて九の君の、侍從の君に……………(實賴、三條御息所に贈答)……………一八
- 九七 太政大臣の北の方亡せ給ひて……………(忠平の詠歌)……………一八
- 九八 同じ太政大臣、左の大臣の御母の……………(忠平、色聽されて詠歌)……………一八
- 九九 亭子の帝の御ともに、太政大臣……………

…(亭子院小倉山御幸に供奉して忠平の詠歌)……………	一八	一〇九	おなじ女、巨城が牛を借りて……(宗子女、巨城に贈歌)……………	一九
一〇〇 大井に季繩の少將住み給ひける頃………(季繩、亭子院に奉歌)……………	一八	一一〇	おなじ女、人に……(宗子女、ある人に贈歌)……………	一九
一〇一 同季繩の少將、病にいたうわづらひて………(季繩臨終の歌と公忠)……………	一八	一一一	大膳の大夫公平のむすめども………(公平女、源信明に贈答)……………	一九
一〇二 土佐守にありける酒井の人眞………(人眞、病になりての詠歌)……………	一八	一二二	おなじ女、後に兵衛の佐もろただにあひて………(公平女、もろただに贈歌)……………	一九
一〇三 平中が色好みけるさかりに………(平中、武藏守の女に通ふ)……………	一八	一二三	兵衛の佐離れて………(公平女、もろただと贈答)……………	二〇〇
一〇四 滋幹の少將に、女………(滋幹と女の贈答)……………	一九	一二四	桂の皇女、七夕の頃………(桂皇女の戀歌)……………	二〇一
一〇五 中興の近江の介がむすめ………(中興女と淨藏の戀愛)……………	一九	一二五	右のおとどの頭におはしける時に………(藤原師輔、少貳の乳母に贈歌)……………	二〇二
一〇六 故兵部卿の宮、この女の………(中興女と元良親王との贈答)……………	一九	一二六	公平がむすめ死ぬとて………(公平女、臨終の歌)……………	二〇二
一〇七 おなじ宮に、こと女………(女、元良親王に贈答)……………	一九	一二七	桂の皇女、嘉種に………(桂の皇女、嘉種に贈歌)……………	二〇三
一〇八 南院の今君といふは………(宗子女、師尹に贈歌)……………	一九			

- 一一八 閑院の大君……(閑院の大君の詠歌)……………二〇三
- 一一九 おなじ女に、陸奥の國の守にて死にし藤原の眞興が……(閑院の大君、眞興と贈答)……………二〇三
- 一二〇 太政大臣は、大臣になりたまひて……(仲平の任大臣を祝ふ忠平の詠歌、および三條御息所と齋宮との贈答)……………二〇五
- 一二一 さねたうの少貳といひける人のむすめの男……(責任女、男と贈答)……………二〇六
- 一二二 とし子が志賀に詣でたりけるに……(とし子と増喜法師との贈答)……………二〇七
- 一二三 おなじ増喜君、遣れる人のもとに……(増喜法師の戀歌)……………二〇八
- 一二四 本院の北の方の……(平中と本院北の方との贈答)……………二〇八
- 一二五 泉大將、故左の大臣にまうでたまひけり……(壬生忠岑、時平邸にて詠歌、ならびに忠岑女のこゝと)……………二〇九
- 一二六 筑紫にありける檜垣の御……(小野好古と檜垣の御)……………二一一
- 一二七 またおなじ人、大貳の館にて……(檜垣の御、大貳官邸にて詠歌)……………二二三
- 一二八 この檜垣の御、歌をなむ詠むとて……(檜垣の御の連歌)……………二二三
- 一二九 筑紫なりける女、京に男をやりて……(筑紫の女の詠歌)……………二三四
- 一三〇 これも筑紫なりける女……(筑紫の女の詠歌)……………二三四
- 一三一 先帝の御時、卯月のついたちの日……(公忠の詠歌)……………二四四
- 一二二 おなじ帝の御時、躬恆を召して……(躬恆、醍醐帝の命により詠歌)……………二四五
- 一三三 おなじ帝、月の面白き夜……(帝の御徴行と公忠の詠歌)……………二五六
- 一三四 先帝の御時、ある御曹司に……(先

	帝、ある童女に歌を賜ふ)……………三七	一四四	この在次君、在中將の東に……(在次君、他國を歴遊して詠歌)……………三〇
一三五	三條の右の大臣のむすめ……………(定方女、兼輔に贈歌)……………三八	一四五	亭子の帝、河尻におはしまし……(遊女しろ、御前にて詠歌)……………三三
一三六	又おとこ……………(兼輔と女との贈答)……………三八	一四六	亭子の帝、鳥飼の院におはしまし……(大江玉淵女、御前にて詠歌)……………三三
一三七	志賀山越の道に、いはみといふ所に……………(とし子の詠歌)……………三九		
一三八	こやくしといひける人……………(こやくしと女の贈答)……………三〇	一四七	昔、津の國に住む女ありけり……(生田川處女塚の由來)……………三五
一三九	先帝の御時に、承香殿の御息所の……………(中納言の君、元良親王に贈歌)……………三二	一四八	津の國の難波のわたりに家居して……(津の國蘆刈男)……………三三
一四〇	故兵部卿宮、昇の大納言のむすめに……………(元良親王と源昇女との贈答)……………三三	一四九	昔、大和の國葛城の郡に住む男女……………(河内通ひの男と貞純な妻)……………三五
一四一	よしいへといひける宰相の兄弟……………(橘良殖の兄弟と筑紫の女)……………三四	一五〇	昔、ならの帝に仕うまつる采女……………(猿澤池に入水の采女)……………三五
一四二	故御息所の御姉(故御息所御姉の詠歌)……………三七	一五一	おなじ帝、立田川の紅葉……………(ならの帝と人麿との詠歌)……………三四
一四三	昔、在中將の御息子在次滋春の君……………(滋春、五條の御に贈歌)……………三元	一五二	おなじ帝、狩いとかしく好み給ひ……………(岩手といふ鷹の事)……………三五
目次		一五三	ならの帝、位におはしましける時……………

- …… (平城帝と皇弟との贈答) …… 二五
 一五四 大和の國なりける人のむすめ ……
 …… (大和の女と京の男との悲戀) …… 二五
 一五五 昔、大納言の、娘いと美しうて ……
 …… (安積山山の井の悲話) …… 二五
 一五六 信濃の國に、更級といふところに ……
 …… (姨捨山傳説) …… 二六
 一五七 下野の國に男女住みわたりけり ……
 …… (下野の女、馬槽に寄せて詠歌) …… 二六
 一五八 大和の國に男女ありけり …… (大和の女、鹿に寄せて詠歌) …… 二六
 一五九 染殿の内侍といふいますかりけり ……
 …… (源能有、染殿内侍と贈答) …… 二六
 一六〇 同じ内侍に在中將の住みける時 ……
 …… (業平、内侍と贈答) …… 二六
 一六一 在中將、二條の後宮いまだ帝にも ……
 …… (業平、二條后に贈歌) …… 二六
 一六二 又在中將、内裏にさぶらひけるに ……
 …… (業平忘草の歌を御息所に贈る) …… 二六
 一六三 在中將、后宮より菊を召しければ ……
 …… (業平菊につけて后宮に贈歌) …… 二六
 一六四 在中將のもとに、人の飾りちまきを ……
 …… (業平、飾りちまきの返歌) …… 二六
 一六五 水尾の帝の御時、左大辨のむすめ ……
 …… (業平、左大辨の娘と戀し、臨終に至つての詠歌) …… 二六
 一六六 在中將、物見に出て …… (業平、物見の女と贈答) …… 二六
 一六七 男、女の衣を借り着て …… (人妻、雄雁鴨の詠歌) …… 二六
 一六八 深草の帝と申しける時、良少將といふ人 …… (良少將の出家) …… 二六
 一六九 昔、内舍人なりける人 …… (井手の契り) …… 二六
 一七〇 伊衡の宰相、中將にものし給ひける時 …… (藤原伊衡、病みて兵衛

補

の命婦と贈答)	二六六
一七一 今の左の大臣…… (藤原忠平、侍女 大和と贈答)	二六七
一七二 亭子の帝、石山に常に詣で給ひけ 註	二九七
り…… (大友黒主、宇多院に奉 歌)	二九二
一七三 良岑の宗貞の少將、物へ行く道に …… (宗貞、五條の女と戀愛) ……	二九二

大 和 物 語

南
波
浩

解 說

大和物語は平安中期（十世期のなかごろ）に成立し、王朝貴族たちの生活理念を結晶反映させた作品である。それは、形態において、歌物語の開祖といはれる伊勢物語に類似してゐるため、歌物語の系列に位置づけられ、「伊勢・大和」と並び稱せられて歌物語の代表作と見られ、また一面では伊勢物語の亞流として伊勢にくらべて軽く見られてきた。しかしながら、伊勢と大和とは形態面においては、かなりの類似性をもつてゐるが、文藝上の性格においては多分に質を異にしたものをもつてをり、大和物語は單純に伊勢物語の亞流作品とのみ見るべきものではなく、大和には大和獨自の特徴と性格とがあり、その獨自性をもつと注目され、吟味されねばならないと思ふ。以下その點について諸方面から考察と解説を試みたい。

大和物語の名義と時代思潮

一體「大和物語」といふ名稱は、何を意味するのであらうか。これについては古來諸説があつて今日においてもまだ定まるところがない。近ごろでは「名義など、どうあらうと、その本質にかかはるものでは